

責任ある消費行動のための
実践的な力の育成
DEVELOPING PRACTICAL
COMPETENCE FOR RESPONSIBLE
CONSUMER BEHAVIOR

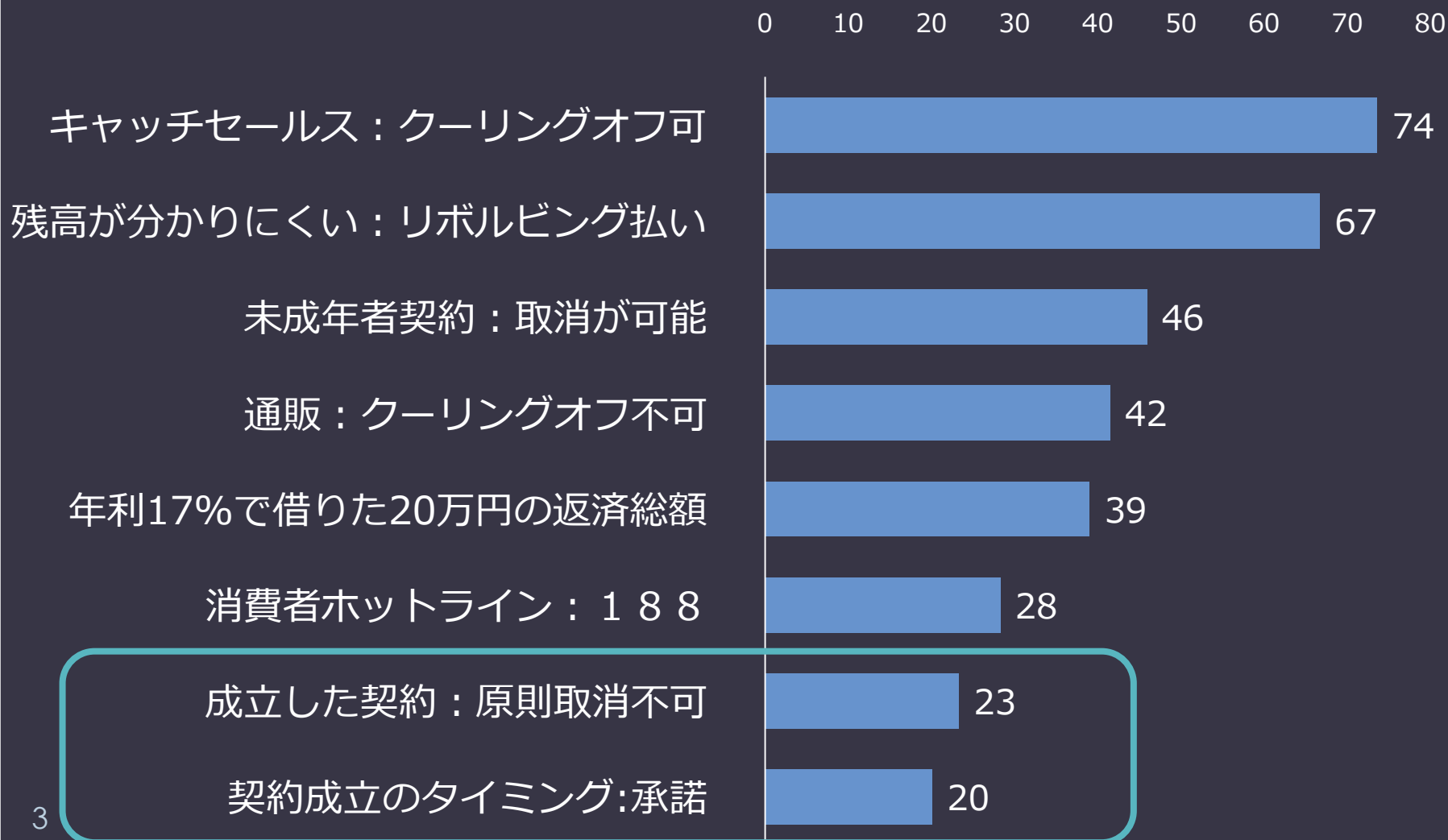
鳴門教育大学大学院
坂本有芳
Yuka SAKAMOTO
Naruto University of Education

消費生活に関する日本の大学生の 知識と行動—アンケート結果から

	鳴門教育大学	全国
対象者	鳴門教育大学に在籍する学部生・大学院生	オンライン調査会社のモニターに登録する全国の大学生・大学院生
配布回収方法	Webアンケート調査	
調査期間	平成30年2月	平成31年2月
有効回答数（率）	159名（15.0%）	200名（6.0%）
	359名（12.7%）	
配布数	1,063名	3,509名

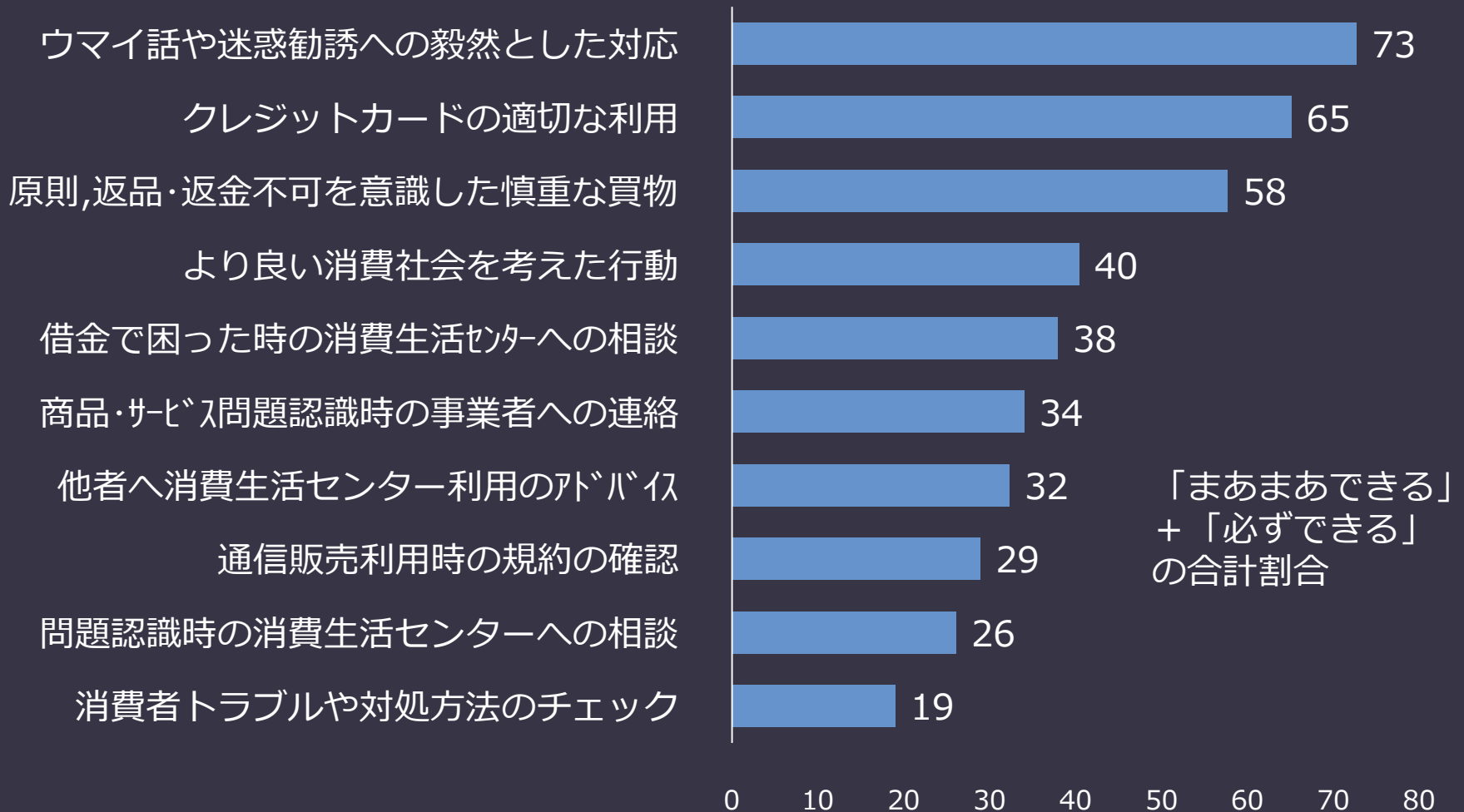
消費生活知識クイズ正答率

契約に関する基礎知識が乏しい



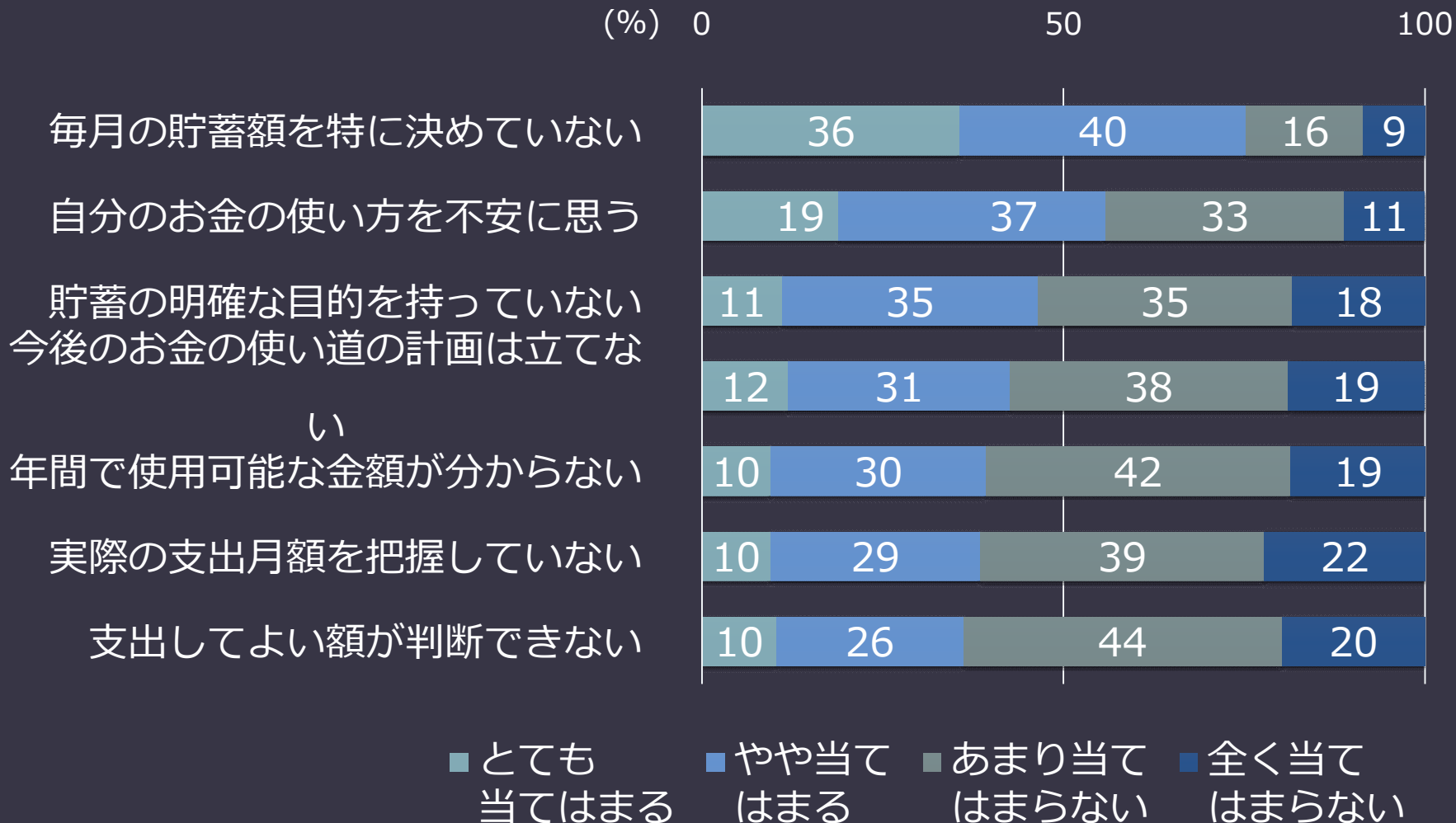
自立した消費者としての意識

トラブル時の連絡・相談、日頃のトラブル確認が課題



金銭管理の状況

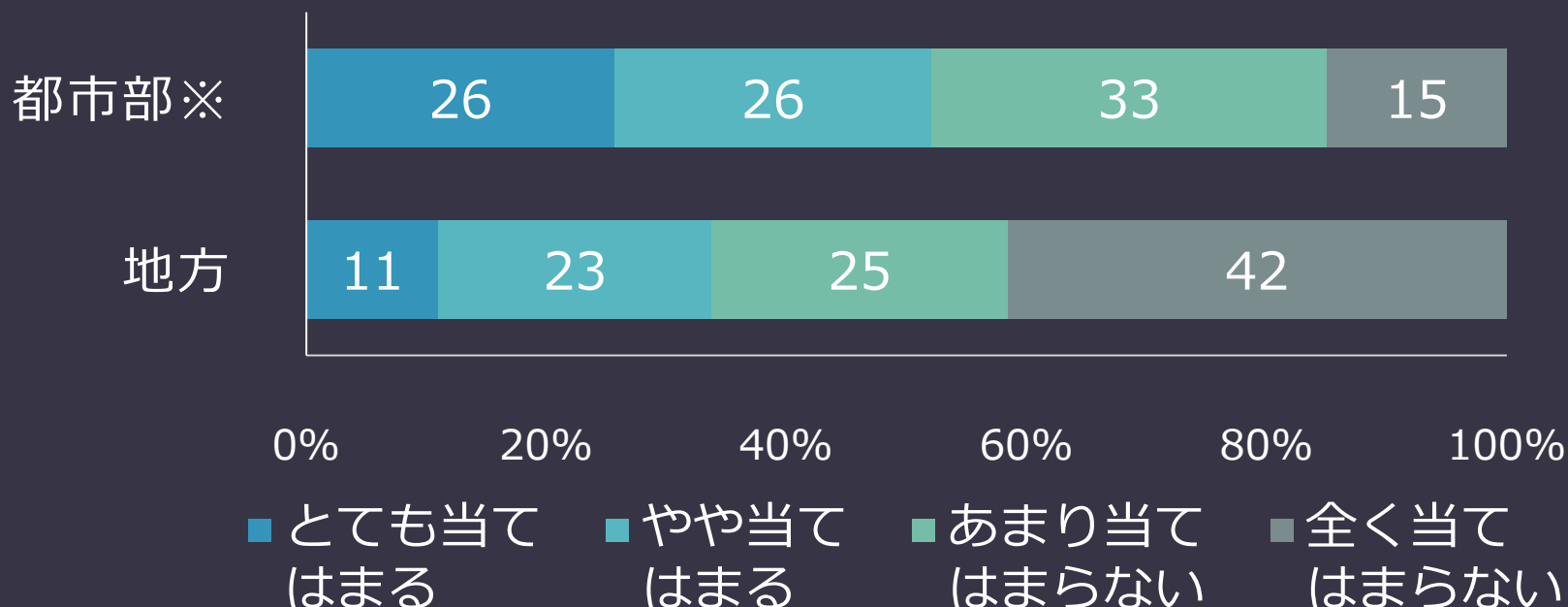
金銭管理の状況は個人差が大きい



キャッシュレス決済の利用状況

現段階では、地域による差が大きい

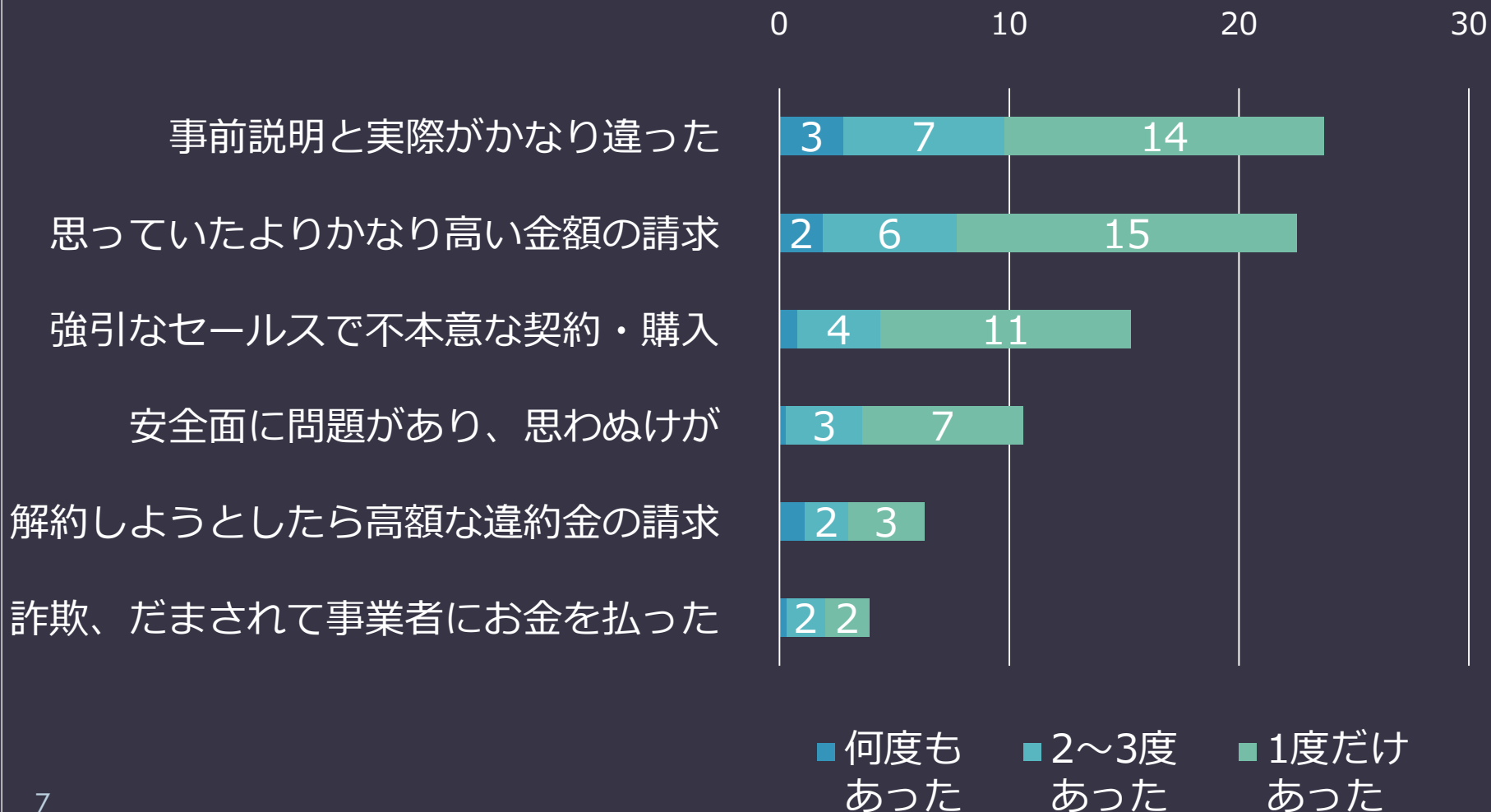
クレジットカードや電子マネーで
支払うことが多い？



※都市部：総人口に占める人口集中地区人口の割合が7割以上の都道府県
(東京都,大阪府,神奈川県,京都府,埼玉県,兵庫県,愛知県,北海道,千葉県,福岡県)

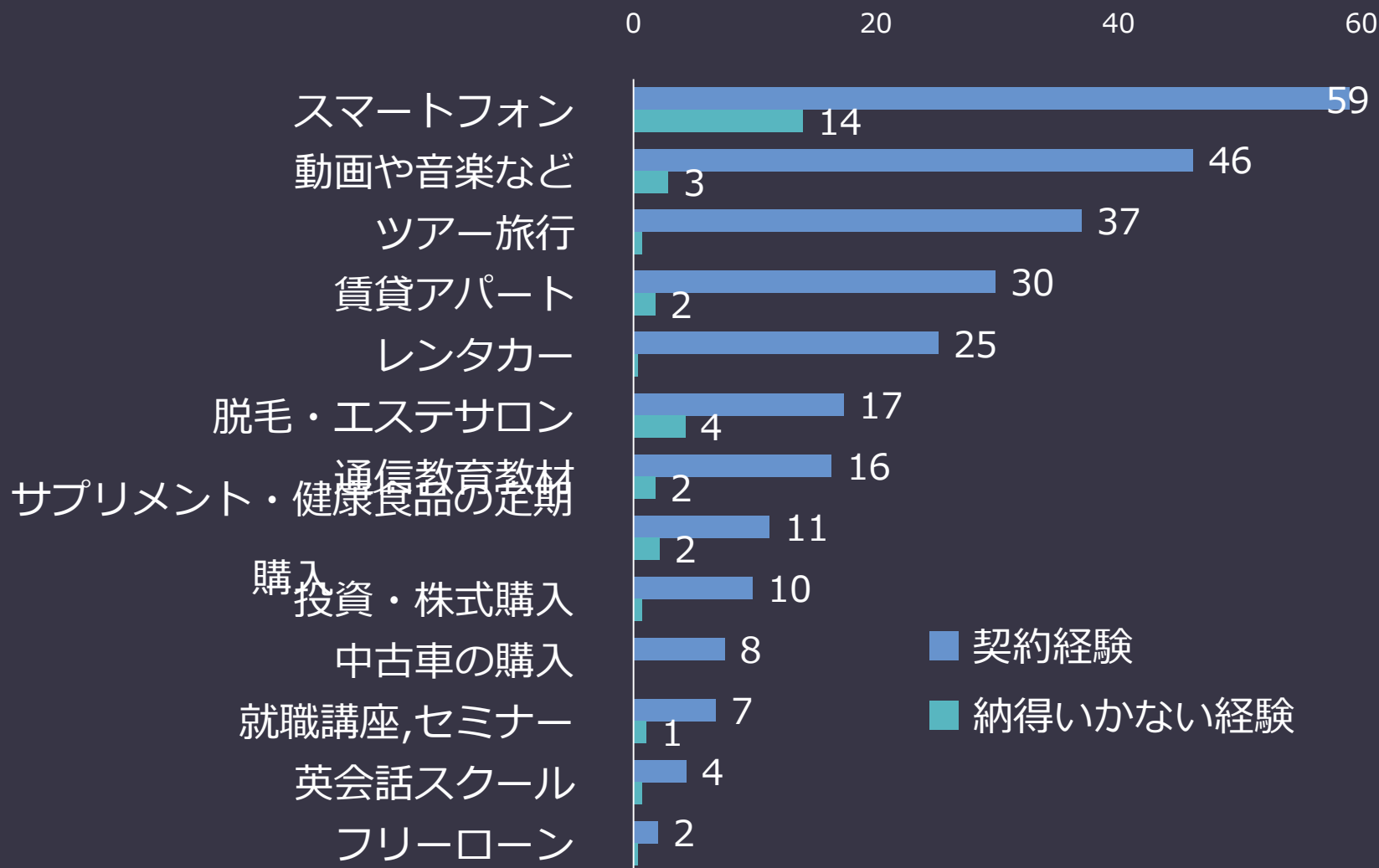
大学生・院生の消費者トラブル経験

深刻な事例は少数ではあるが・・・



契約経験・納得いかない経験

納得いかない経験は、スマートフォン、
脱毛・エステサロンの契約に多い



主体的・対話的学びによる知識の習得

- 他の人に教える，議論するなど，主体的・対話的学びを通じて知識を習得し，消費者教育への理解を深める。



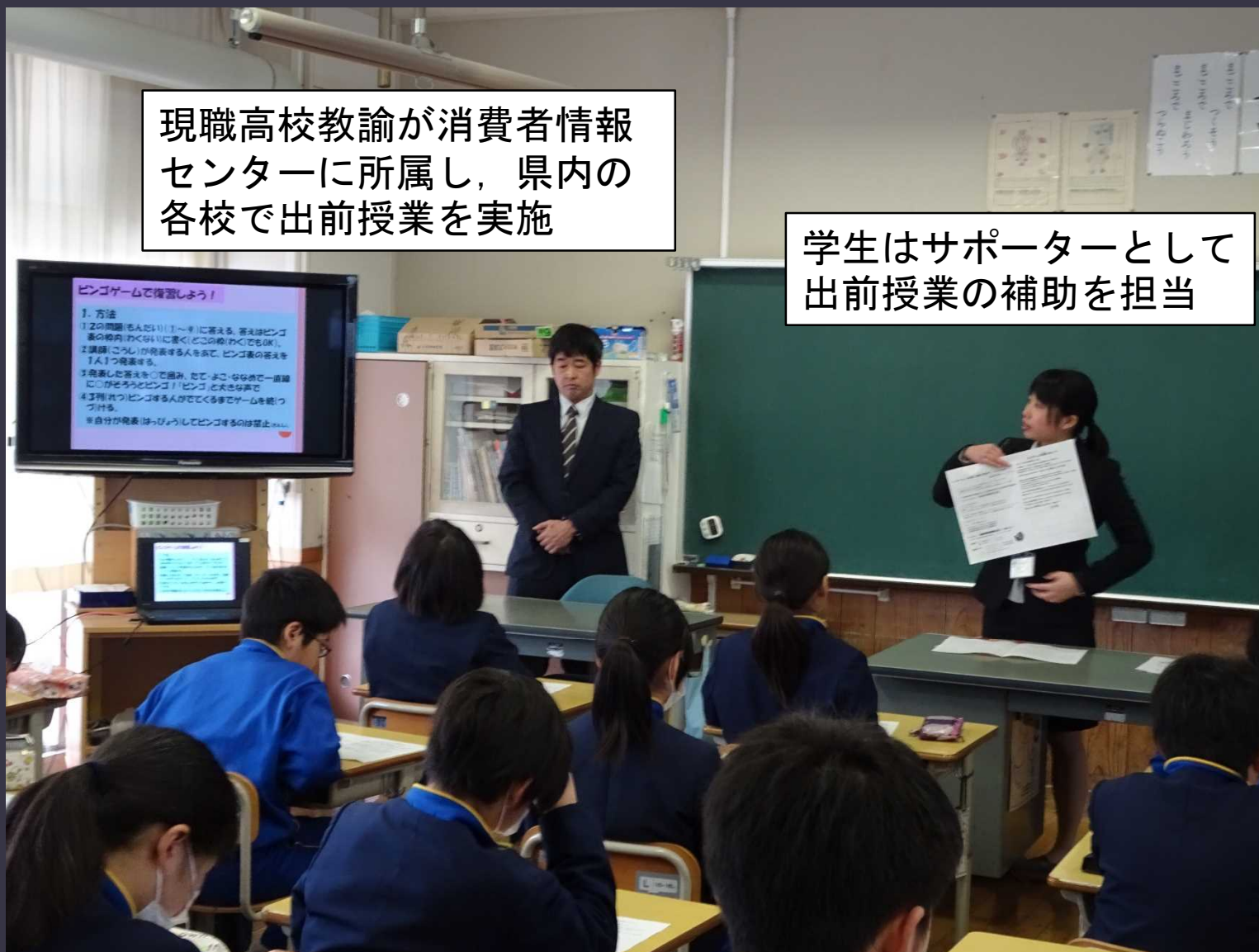
消費生活センター一訪問



出前授業サポーター：小・中・高等学校の訪問

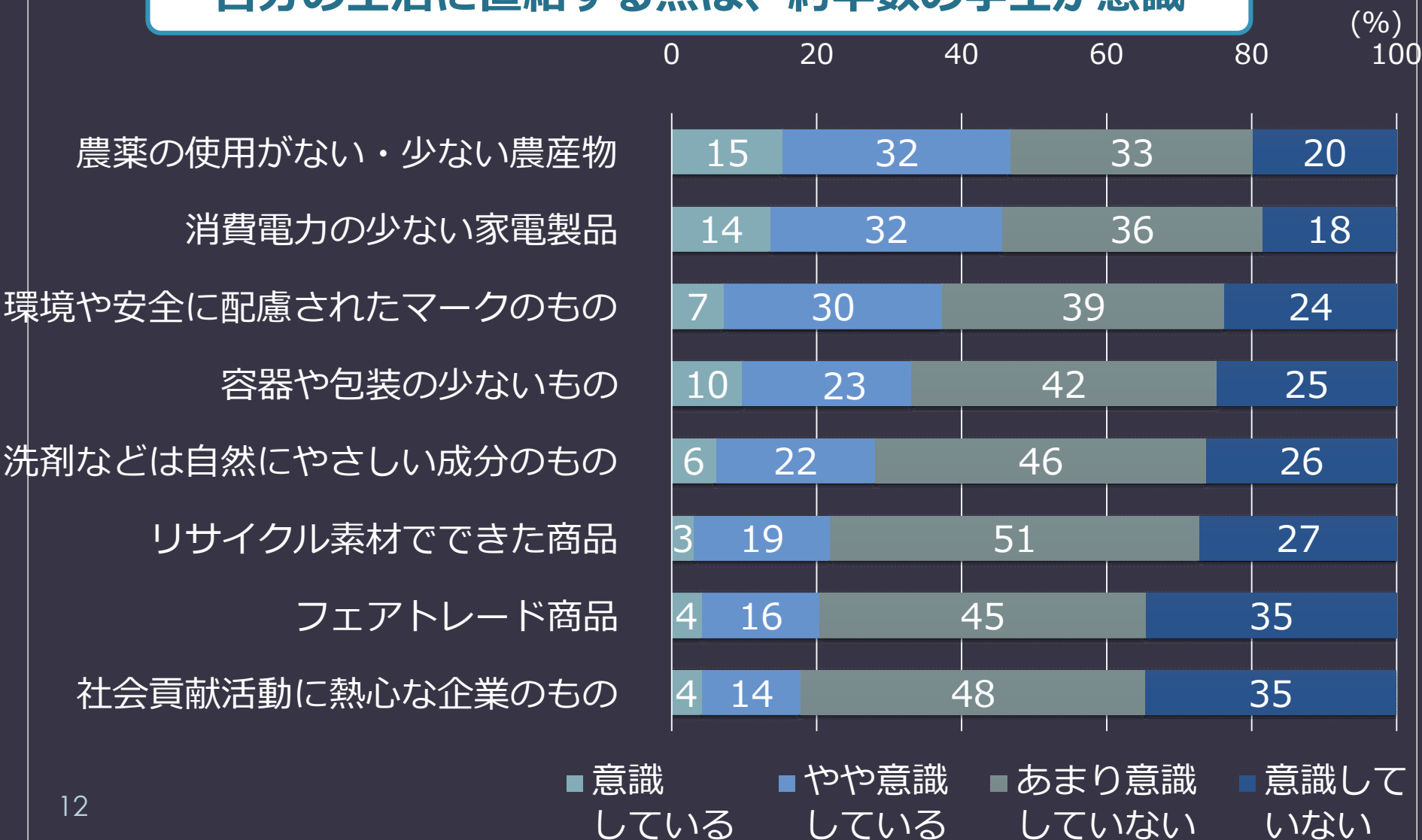
現職高校教諭が消費者情報センターに所属し、県内の各校で出前授業を実施

学生はサポーターとして出前授業の補助を担当

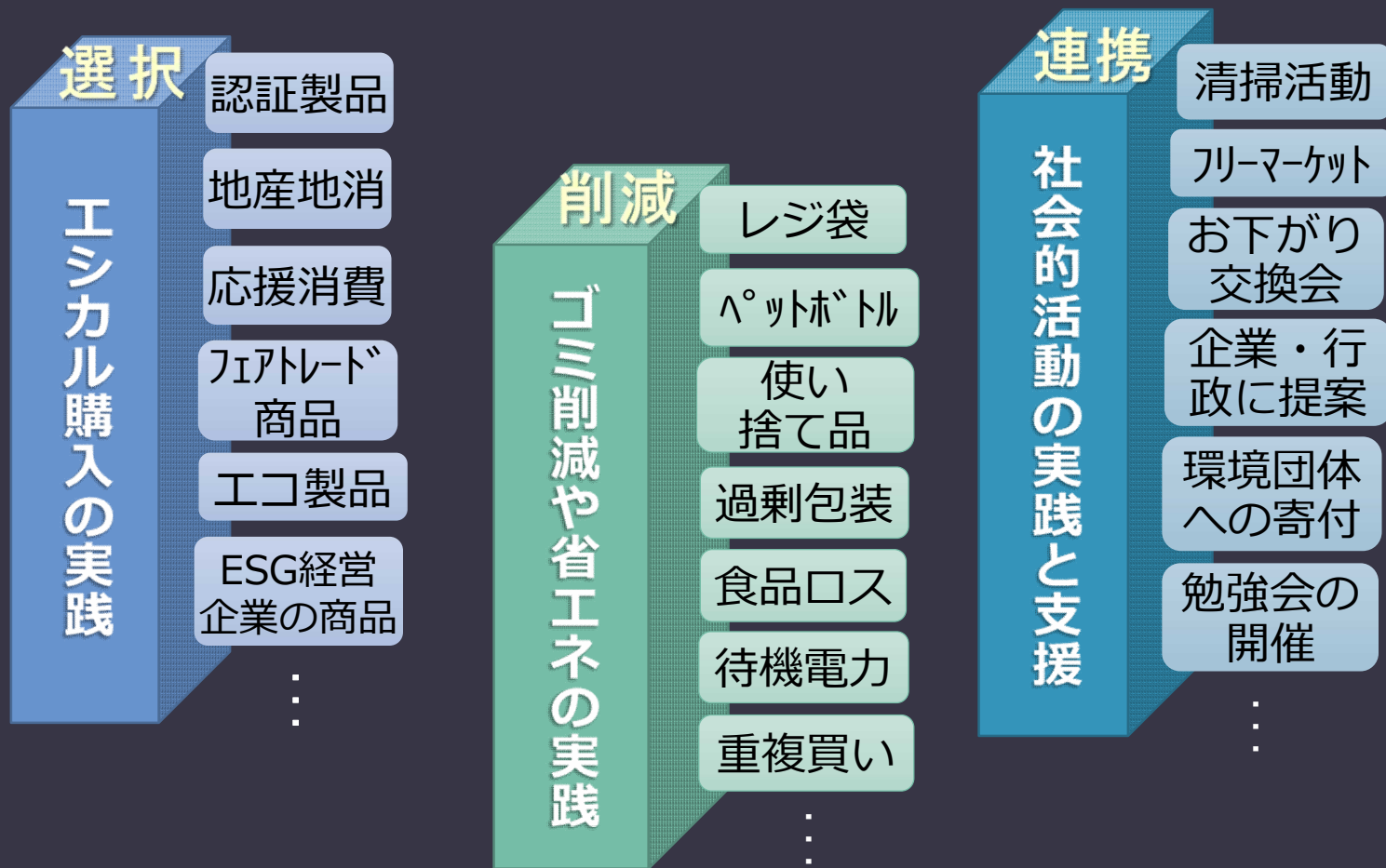


エシカル消費の状況：商品選びで意識する点

自分の生活に直結する点は、約半数の学生が意識

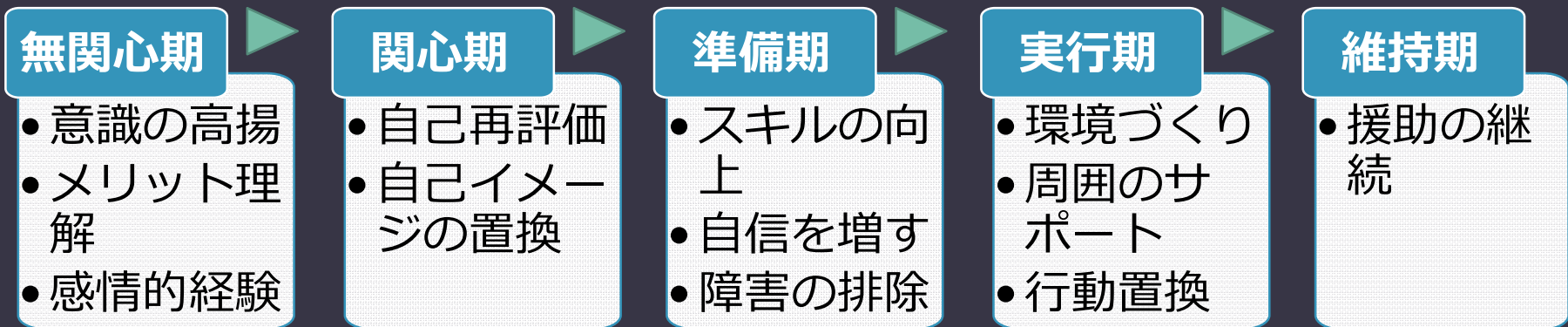


持続可能な消費を支える3本の柱と活動例



行動変容をうながす消費者教育

- 行動変容ステージモデル（Prochaska & Velicer, 1997）をふまえた教育
 - 人が行動を変える場合は5つのステージがあり、それぞれに適したアプローチが実践に効果的だと考える



例：食品ロス削減

